

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイサービス ピピ2 （児童発達支援）			公表日	2025年 3 月 27 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		構造化により、コーナーづくりができており、発達支援営業時は運動コーナーも用意している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		発達支援の子どもの利用が現在ないが、必要なスタッフの人数が確保できるだけの常勤体制をとっている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		構造化や、スケジュールなどの視覚支援をしており、子どもたちが自分でわかって動ける環境を用意している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		定物定位で写真カードなどでの支援を入れているので、子どもたちが自分で遊んでかたづけっもでき、物を元に戻すことができる。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		一人でゆっくり休めたりカムダウンができるコーナーを用意しており、必要に応じて利用し、切り替えたり、落ち着いたりの練習をしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		ミーティングをこまめに行い、子ども理解や小さな困ったことを記録を元に、すぐに改善し試して次の課題を見つけるサイクルを作っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		比較的活発に意見を言い合える関係ができており、小さなことから業務改善がなされている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年1度は法人全体での研修があり、そのほかはミーティング時に強度行動障害支援者養成研修で講師をしているスタッフが知識と合わせて理解につなげる研修を意識したものとなっている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		おもちゃを使った遊びを見ながらのアセスメントを得意としており、できるわかるが広がる取り組みをしている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		現在利用者がいない状態だが、いる時は、振り返り（モニタリング）や原案会議などを通して共通理解を図っていた。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		現在利用者がいない状態だが、いる時は、振り返り（モニタリング）や原案会議などを通して共通理解を図っていた。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		おもちゃを使った遊びを見ながらのアセスメントを得意としており、できるわかるが広がる取り組みをしている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○				

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ て児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		放課後デイとの多機能なので、午前中は個別 メイン・3時以降が集団活動と組み合わせて の支援ができていた。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援 の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っ ているか。	○		ミーティングにより、できていた。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援 の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		ミーティングで、振り返りや気づいたことな どを出し合い、次回の支援へとつなげてい た。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善 につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要 性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		チームでのモニタリングを行っている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議 に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保 育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えている か。	○		連携というよりも情報共有くらいのことしか できていないのが現状だった。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進 の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こ ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等 の情報共有と相互理解を図っているか。	○		連携というよりも情報共有くらいのことしか できていないのが現状だった。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間 で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		多機能で放課後デイをおこなっているので、そのまま小 学生としてご利用のお子様が多く、情報共有については できているが、相互理解のところまで深まっていないの が現状。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	○			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連 携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受 けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積 極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		地域の児童発達支援センターとのつながりは ないが、独自で県のアドバイザーや県外のコン サルタントとつながっており、必要な相談 をしアドバイスを受けている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスー パーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこ どもと活動する機会があるか。		○	保護者様から「希望しない」という声もあ り、積極的には行っていない	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況 や課題について共通理解を持っているか。	○			共通理解をしているつもりでいるが伝わっ ていないこともあるように感じる。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プロ グラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修 の機会や情報提供等を行っているか。		○		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を 行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊 重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや 家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		面談だけでなく、LINEなどで、日々の様子をお伝えしたり相談を受けたりしている。	面談やLINEなどでやり取りをしても困ったことが見えてこないことも多い。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		年1回程度の、スタッフと保護者様の合同研修会を行っている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			特に申し入れを受けた経験がないが、あれば対応したいと思う。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚的なアイテムなど、事業所で使えるようになったものを紹介し、ご希望があればおうちでも使ってもらえるように用意している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		公民館を利用した運動遊びや、外出・買い物などで地域とのつながりを作っている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		児童発達で身体拘束の必要がある対象児は経験がないが、必要がある場合は適宜対応できる用意はしている。	